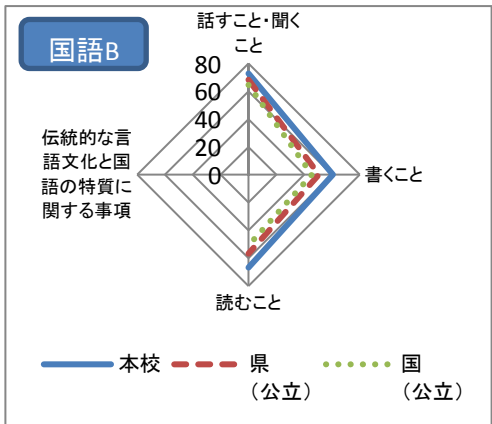
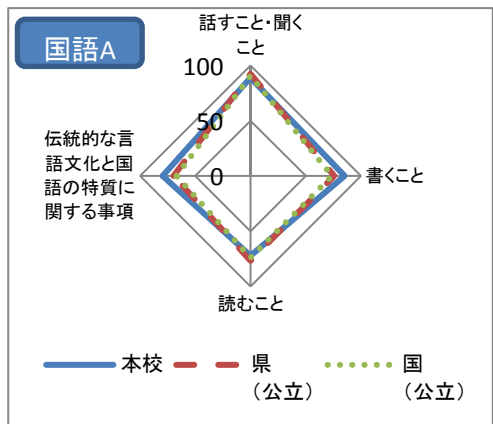


# 平成30年度 指導方法等の改善計画について【国語】

海田西小 学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率(A本校80.0%, 県73.0%, 国70.7%)(B本校65.0%, 県59.0%, 国54.7%)

## 本年度の結果について



○全体的な傾向  
国語科の結果において、国語Aは80.0%、国語Bは65.0%の平均正答率となっている。県平均と比べると、国語Aでは、書くことと言語の領域において、約10ポイント上回った。また、国語Bでは、全ての領域で県平均を上回った。基礎的・基本的な内容について、そして活用力についても一定の成果を得ていると考える。

○昨年度の課題への取組の成果と課題  
昨年度は、言語の領域で漢字の書き取りの正答率が低かった。そこで書き取りの反復とともに、国語辞典や漢字辞典の利用の習慣づけや調べた語句を使った文作りを多く取り入れた。その結果として、5問すべてで県平均を上回る結果になった。しかし、書く領域では、問題文の中から必要な情報を取り出し、まとめて書くことが課題であったが、今年度も正答率が低く、継続した課題である。

重点課題
【課題1】 文の中における主語と述語との関係に注意して、文を正しく書く。 (正答率40.7%)
【課題2】 目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書く。 (正答率22.2%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
文末表現の習熟を図るため、説明文の読解では、文末の違いに着目させ、その意味の違いを理解させる。また、帯タイムなどで、短文作りや主述の一致に関する問題に取り組む。	主述を一致させて書かせよう
まず音読や意味調べ等で速読力を身に付けさせ、問題の意図を的確に捉える力の土台を築く。そして書く場面では、必要な情報だけを取り出せているかどうか、条件にあった文章であるかを確認させ、一人一人の課題に合った指導を行う。	条件に合った文章を書かせよう

平成31年度 全国学力・学習状況調査 数値目標
国語A正答率 県平均+5ポイント
国語B(書く領域)正答率 県平均+5ポイント

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法					全学年 CRT標準学力調査		H30全国学力調査 国語A 5年
目標値					全国平均以上		80%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法					全学年 CRT標準学力調査		H30全国学力調査 国語B 5年
目標値					全国平均以上		65%
実施後数値							

# 平成30年度 指導方法等の改善計画について【算数】

海田西小 学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率(A本校67.0%, 県66.0%, 国63.5%)(B本校60.0%, 県54.0%, 国51.5%)	<b>本年度の結果について</b>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>算数A</b></p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>算数B</b></p> </div> </div>	<p>○全体的な傾向 算数科の結果において、算数Aは67.0%,算数Bは60.0%の正答率であった。県の平均正答率と比べると、算数Aで1ポイント,算数Bで6ポイント上回っている。特に算数Bでは、全領域で県平均を上回ることができ、活用力の向上が見られた。</p> <p>○昨年度の課題への取組の成果 昨年度は、問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す問題の正答率は48.0%であった。そこで、立式する際、数直線や図を用いて考えることを繰り返し指導した。その結果、今年度は81.5%に向上した。</p>

重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
<b>【課題1】</b> 百分率を求める。(正答率40.7%) 割合を正しく求める。	基準量と比較量の関係を正しく捉えられるようにするために、問題場面を図や数直線に表現する活動を多く取り入れる。そして、問題場面を図に表す過程を丁寧に確認する場を設ける。  複数のグラフを関連付けて読み取るために、まず、それぞれのグラフが何を表しているのかを把握させる。その上で、複数のグラフを比べたり根拠を明確にして事象を説明させたりする活動を多く取り入れる。社会科や理科でもこのような活動を取り入れる。	図に表して考えさせよう
<b>【課題2】</b> グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることができる。(正答率14.8%)		比べて説明させよう

平成31年度 全国学力・学習状況調査 数値目標	【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
割合の問題正答率 全国平均以上	学年・方法					全学年 CRT標準学力調査		H30全国学力調査 算数A 5年
	目標値					全国平均以上		70%
数量関係の問題(表とグラフ)正答率 全国平均以上	実施後数値							
	【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
	学年・方法					全学年 CRT標準学力調査		H30全国学力調査 算数B 5年
目標値					全国平均以上		63%	
実施後数値								

# 平成30年度 指導方法等の改善計画について【理科】

海田西小 学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率(本校69%, 県63%, 国60.3%)	本年度の結果について
<p>理科</p> <p>物質 80 60 40 20 0</p> <p>地球 エネルギー 生命</p> <p>— 本校 — 県 (公立) ..... 国 (公立)</p>	<p>無解答の児童はいなかった。また、正答率30%未満の児童は3.7%であった。4つの区分において、いずれも県平均と国平均を上回った。特にA区分の「エネルギー」の正答率は70.4%で、県平均を13.6ポイント、国平均を17.3ポイント上回った。しかし、2問あった記述式問題については、正答率33.3%、51.9%であった。基本的な知識や技能については定着しているが、それを関連付けて考えたり、理由を表現したりすることが課題といえる。</p>

重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
<p>【課題1】 実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する。(正答率33.3%) 記述式の問題の正答率 42.6%</p>	<p>観察や実験、それを考察する時間を計画的に保障する。そして、実験結果から、考察したことや判断した根拠や理由を説明する活動を多く取り入れる。</p>	<p>根拠や理由を説明させよう</p>
<p>【課題2】 物の溶け方の規則性を自然の事物・現象に適用する。(正答率37.0%)</p>	<p>物が水に溶けるということを絵や図で表現することで質的・実体的な見方を働かせたりするように意識して授業を行う。また、予想や考察の場面では、自然の事物・現象の変化や規則性を捉え、既習事項を適用して考えさせることを取り入れる。</p>	<p>絵や図を使ってまとめさせよう</p>

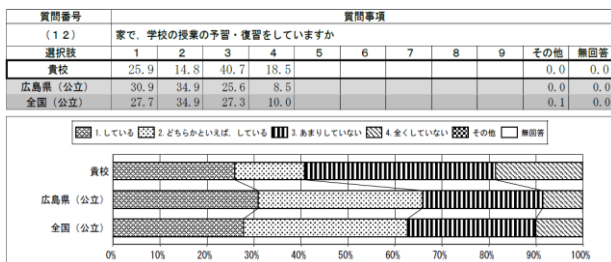
平成31年度 全国学力・学習状況調査 数値目標								
<p>記述式の問題の正答率50%</p> <p>A区分「物質」の正答率 県平均+5ポイント</p>	【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
	学年・方法					全学年 CRT標準学力調査		H30全国学力調査 理科 5年
	目標値					全国平均以上		50%
	実施後数値							
	【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
	学年・方法					全学年 CRT標準学力調査		H30全国学力調査 理科 5年
目標値					全国平均以上		70%	
実施後数値								

# 平成30年度 指導方法等の改善計画について【質問紙】

海田西小 学校

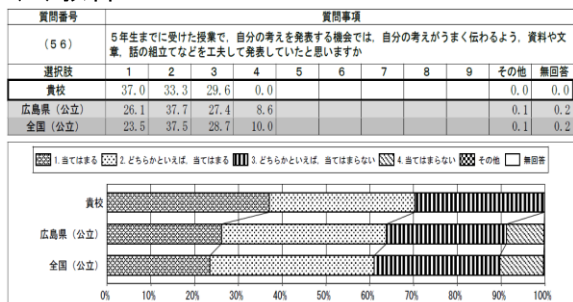
(全国学力・学習状況調査 質問紙)

## (1)生活・学習

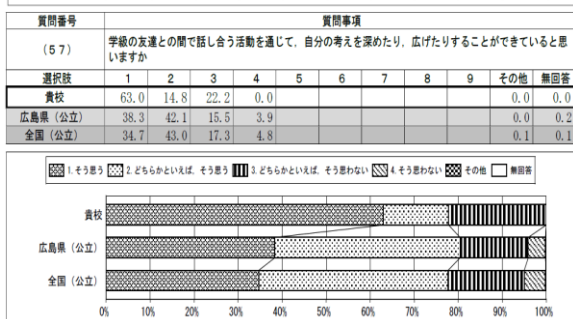


児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
<p>質問(12)「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。」の肯定的評価は40.7%であった。県平均、国平均より低かった。質問(11)「家で、学校の宿題をしていますか」では、していると100%の児童が答えているので、自主的な学習において課題があると考える。</p>	<p>家での自主的な学習の必要性や自主学習の仕方、自主学習ノートの書き方について確認する。取り組み方の良い例として、児童の自主学習ノートを掲示する。</p>	4・5・6年	60%	CRT標準学力調査 i-Check項目76	1月		

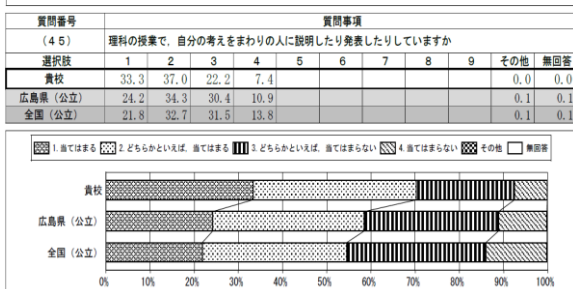
## (2)教科



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
<p>質問(56)「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」では、肯定的評価は70.7%であった。目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように話す指導に課題がある。</p>	<p>話の構成や内容を工夫するために、自分の立場を明確にして説明したり、事実と意見の区別をしたり、結論付けを明確にしたりすることを指導する。また、自分の考えが伝わるように話すことができていたかどうか振り返りを行う。</p>	5・6年	75%	西中校区アンケート項目7	2月		



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
<p>質問(57)「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」では、肯定的評価は77.8%であった。県平均より2.6ポイント低い。</p>	<p>自分の考えを深めるには、互いの考えを理解し、共通点や相違点を明らかにしながら話し合うことが必要である。「西っ子発表スタイル(話型)」を活用し、結論先行型で理由を付けて発表すること、友達の見解と比べて発表することに取り組む。</p>	5・6年	80%	西中校区アンケート項目6	2月		



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
<p>質問(45)「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。」では、肯定的評価は70.3%であった。自分の考えをもつことが難しいことや発表することに自信がもてていないことが課題である。</p>	<p>観察や実験を通して、自分の考えがもてるようにする。課題に対する予想や見通しをもち、観察や実験に取り組ませる。そして、結果から考察させる際には、まとめ方のモデルを提示し、予想と比較させたり、課題と対応させたりしながら考えをもたせるようにする。</p>	5・6年	75%	CRT標準学力調査 i-Check項目41	1月		